

つくばで輝く研究者

WADA Ryuta 和田 龍太 さん

アステラス製薬株式会社 製薬技術本部 創薬技術研究所 主任研究員 博士(理学)



ドイツ出身。1999年江戸川学園取手中学校入学。2年間のアメリカ生活を経て帰国後、同学園高等学校編入・卒業。2006年東京大学理科一類入学。農学部生命化学・工学専修卒業後、同大学院応用生命工学専攻入学・卒業。12年アステラス製薬株式会社入社。17年横浜市立大学生命医科学研究科博士課程後期生命医学専攻入学。19年卒業、博士号取得。

〈新薬投与が原体験〉

入社1年目から携わった抗体医薬品が、2年後初めて患者に投与された。大きな達成感を覚えたと同時に、開発に関わってきた多くの先輩研究者の情熱と確固たる信念をの自分の考え方の根幹となつていきます。社名の由来である「世界にまだない新薬で患者さんの明日を照らす」という夢に向かい、現在は遺伝子治療分野でアデノ随伴ウイルス生産細胞培養法の技術

科学の進歩を

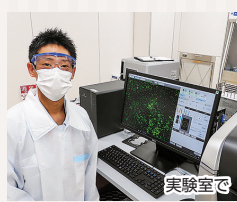
「患者さんの価値」に変える

開発に取り組んでいる。「あらゆる挑戦は、患者さんの価値が変わって初めて真のイノベーションとなると考えます」

〈医者から研究者へ〉

ドイツ・ミュンヘン生まれ。5歳で帰国。自転車にまたがったままヘビイチゴを取ろうとして転倒し足を数針縫うなど、子ども頃は絵に描いたようなわんぱく坊主だった。小学校の卒業文集には「医者になりたい」と書いた

が、成長するにつれ夢は宇宙飛行士、研究者へと変化。大学院では応用生命工学を研究し知識を深めた。就職活動時は東日本大震災直後の混乱期。ほんの瞬間携帯電話の電波がつかなくなった時に面接の



実験室で

連絡を受けるなど、「縁があったらしく思えない」同社から内定を得た。その後、妹が急性心筋炎により17歳で早世。今なお発症理由や治療法が不明の難病で突然人生を奪われた妹。「未知」を「既知」とし、多くの患者さんに薬や治療法を創出したいという思いを強くしました。研究活動にいそしみながら、より一層の高みを目指し大学院に通い昨年

博士号を取得。将来は海外の研究所でサイエンスリストとして従事したい希望もある。「まだ経験がない新しい分野に歩み出してみたい」

つくばの暮らし

ランニングが趣味で11*程度を毎日こつこつと走っている。つくばマラソンにはほぼ毎年出場しているが、「今年はいち止めで目標を見失っていますと苦笑い。妻と1歳の娘と公園に散歩に出た際など、つくばならではの自然の豊かさもお胸に秘めるのは今なお、胸に秘めるのは宇宙飛行士への夢。国境線がない地球を宇宙から見たい。JAXAの前を通る際、いつも思うんです。次に募集があったら絶対応募するぞって」



スミソニアン航空宇宙博物館

世界のあしたが見えるまち。